

市長から市民のみなさんへ

61

山陽小野田市長 白井 博文

11億もの公金が 滞納されています

2, 3ページの記事をご覧になって、税や保育料など、市の公金といわれるものの約9%, 約11億4千万円ものお金が支払われない“滞納”の状態にあることに驚かれた市民の方もいらっしゃるでしょう。税や保険料、保育料など“入るべきもの”が入らなくなると、市を運営していくうえでの財政的基盤が揺らぐだけでなく、きちんとお支払いいただいている市民の方との間での公平感が失われることにもなります。そこで、そういった慢性的な滞納案件の解決を目的に今年4月「債権特別対策室」という部署を新たに設置し、いわゆる“悪質な”滞納

者に対して、財産の調査から給料の差押えなど強制的手段で対処したところ、半年間で約4千万円の成果をあげることができました。

もちろん、そういった断固とした措置を講じるのは、連絡に応じず、無視を決め込むような“悪質な”滞納者に限られています。すべての滞納者に対して、最初からそのような厳しい態度で接しているわけではありません。個々の事情に応じて話し合いを行っています。

公金の滞納は市の財政を苦しめている要因の一つではありますが、それ以上に、先ほども申しましたが、税等の負担の不公平感を取り除くことが最優先の課題と考え、今後も債権特別対策室を中心に組みんでいく決意です。税や料の納付について、市民のみなさんのご協力をお願いしたいと考えます。

一方で、市民のみなさんから納めていただいた公金については、1円たりとも無駄にせず、お金の大切さを職員が肌身で感じるような意識改革を行っていくことは言うまでもありません。

対話の日

【いずれの会場も19:00から】



11月29日(木) 梅田自治会館
12月13日(木) 生田公会堂
12月27日(木) 笹尾自治会館

※山陽地区は河合病院事業管理者が同席します。

レッドクリフ高校の 校長先生から お礼状が届きました。



▲歓迎会のようす (10月1日 市役所にて)

10月1日に本市を訪問したレッドクリフ高校の校長先生から感謝の気持ちを表したお礼状が市長あてに届きました。海外派遣事業の現地プログラムで、レッドクリフ高校に派遣生が訪問したことが縁で実現した今回の本市来訪。派遣された本市の中学生が中心となって企画した歓迎会など「友情を再確認する貴重な機会を設けていただき感謝しています」と校長先生の手紙は結ばれていました。

このような学生同士の国際交流の輪が本市でも広がっていることについて、市長としてたいへんうれしく思うとともに、来年度以降も海外派遣事業でたくさんの“出会い”が生まれることを期待してるところです。

